FMU NEWS Letter
DECEMBER 6, 2024 Vol.32

TOPIC

橋本勝也選手有難う! ようこそ附属病院へ

本学附属病院 小児病棟訪問

間近で見る橋本選手と初めて触れる金メダルに夢中になれた時間

令和6年11月6日(水)、パリパラリンピックの車いすラグビーで金メダルを獲得した橋本勝也選手が、本学附属病院の小児病棟を訪問しました。

「小児病棟に入院中のお子さんたちにエールを送りたい」という橋本選手の強い希望が、附属病院リハビリテーションセンターの野村潤理学療法士を通じて実現したものです。

訪問当日、橋本選手は野村潤理学療法士と共に、お子さんたちの目の前で車いすラグビーのダイナミックな動きを披露。その激しいコンタクト音や素早い動作に、お子さんたちから歓声が上がりました。

金メダルの重さと手触りは格別に

さらに感動の瞬間が続きました。橋本選手は、参加したお子さん一人一人に金メダルを触っていただきながら「入院中で外に出ることができなくても、知らないうちに自分自身が決めてしまっている限界や可能性の枠の中から外へ出てみよう!」と笑顔で話しかけました。

お子さんたちは、間近で見る橋本選手と初めて触れる金メダルに感動し、真剣な表情でその言葉に聞き入っていました。

この励ましの言葉は、お子さんと保護者の皆さんにとって、まさに「金言」となりました。

訪問を終えた橋本選手は、「自分が頑張っている姿を見せることで、少しでも行動に移してくださる方が増えたら、本当にうれしいです。これからも車いすラグビーを通じて、自分の可能性を広げることの大切さを伝えていきたい」と意気込みを語りました。

その笑顔と力強い言葉は、多くの人に希望と勇気を届けました。

NEWS

本学、ARCALIS及び福島TR財団による包括業務提携覚書の締結

令和6年11月14日(木)、本学は、株式会社ARCALIS、一般財団法人福島医大トランスレーショナルリサーチ機構と、mRNA医薬品・ワクチンの研究開発及び製造に係る協業関係を進めていくことを目的とした包括業務提携覚書を締結しました。

福島県立医科大学医療-産業トランスレーショナルリサーチセンターの進める福島医薬品関連産業支援拠点化事業(福島事業)の成果を社会実装するために、mRNA医薬・ワクチン(感染症ワクチン及びがん治療用ワクチン)の研究開発を共同で推進していきます。

また、福島事業の成果を利活用し、mRNA医薬品・ワクチンに利用可能なシーズ遺伝子の探索を共同で実施します。これらの活動を通じて、福島県そして日本におけるmRNA医薬品・ワクチンの製造・臨床試験・治験を促進し、新たなバイオ産業の発展に向けて協力してまいります。

福島県立医科大学
医療-産業トランスレーショナル
リサーチセンター

速報　第10回光翔祭レモネードスタンド寄附贈呈式開催報告

令和6年12月6日(金)、福島県立医科大学附属学術情報センター展示館展示室において、第10回光翔祭の「レモネードスタンド」寄附贈呈式が行われました。

このイベントは、令和6年10月5日(土)・6日(日)に開催された第10回光翔祭の記念企画として実施され、売上金201,398円が福島県立医科大学附属病院小児腫瘍内科に全額寄附されました。

贈呈式には、附属病院小児腫瘍内科の佐野秀樹教授、藁谷朋子病院助手、そして第10回光翔祭実行委員会のメンバーが出席しました。

佐野秀樹教授は、小児がん患者さんを支援する活動とレモネードスタンドの歴史を紹介し、「この支援活動が広がり、多くの患者さんに希望を届けるきっかけとなることを期待しています」と述べ、実行委員会の尽力に感謝の意を表明しました。

また、第10回光翔祭実行委員会委員長の松崎宙大さん(医学部4年生)は、「レモネードスタンドを通じて、小児がん患者さんへの支援の輪がさらに広がることを願っています。後輩たちにもこの活動を受け継いでほしい」と語り、今後への期待を寄せました。

贈呈式後には、小児がん患者さん支援について「自分たちに何ができるのか」を考える学びの時間が続きました。

この活動を通じて、多くの人が支援の重要性を改めて実感する場となりました。

この取り組みは光翔祭の活気を象徴するとともに、多くの来場者から関心と支援をいただくことができました。心よりお礼申し上げます。今後も、このような活動を通じて支援の輪を広げていけるように努めてまいります。

第10回光翔祭実行委員会出席者（全員医学部）
4年生　松崎宙大さん　甲賀庸資さん
　　樋口大洋さん　森岡優仁さん
3年生　小池陸翔さん　林真理愛さん
　　飯田大雅さん

NEWS　パンダハウスから本学附属病院小児病棟へ絵本を贈呈いただきました

令和6年11月20日(水)、パンダハウスから附属病院小児病棟への絵本贈呈式が開催されました。

この絵本は、以前に附属病院小児病棟に入院していた子どもたちが描いた絵を一冊にまとめたもので、パンダハウスによって制作され、この度寄贈されました。

絵本には、子どもたちが病気や治療と向き合う中で感じた希望や夢が色鮮やかに表現されています。制作に携わったのは、小児病棟での入院経験を持つスタッフや関係者です。

自身の入院経験を振り返り、辛い治療の最中でも少しでも気持ちが軽くなり、笑顔になれる時間を届けたいという思いを込めて、この絵本を作成しました。

贈呈式では、小児腫瘍内科の佐野秀樹教授や小児科の郷勇人教授が代表して受け取りの謝辞を述べました。

絵本を手に取ったお子さんたちが、柔らかな絵に目を輝かせ、一瞬でも心穏やかに過ごすことができ、同じ境遇の子どもたちにとって勇気と癒しを届ける小さな光となることを願っています。

病と闘う子どもと
家族を応援する
認定特定非営利活動法人 ▶▶▶
(NPO)法人
パンダハウスを育てる会

NEWS　心ひとつに 須賀川支援学校医大校で学習発表会を開催

須賀川支援学校提供

令和6年11月1日(金)、3階校舎とみらい棟5階をオンラインでつないで、数年ぶりの学習発表会を開催しました。

テーマ「心ひとつに　前向きに」とテーマソングは、児童生徒の意見と投票で決定し、テーマを合言葉に、小学部・中学部の各発表の練習、全体での合同発表、開閉会式各役割の練習をがんばりました。

当日は、家族や病棟の先生、看護師をはじめ、病院内関係者の皆様と、多くの方々が見守る中、児童生徒は、楽器の演奏・合奏や、興味関心に沿って調べた学習について、立派に発表することができました。

合同発表では、一人一人が描いた「前向きフラワー」を披露し、全てを集めて大きな「花」を作りました。

オープニングからフィナーレまで、参観者からたくさんの拍手、称賛いただき、児童生徒・参観者・職員全員が大満足の笑顔で終えることができた学習発表会でした。